



自然遊学館 だより



背面

腹面

チビイトマキヒトデ

2017年7月9日、二色の浜での観察会時に採集された7腕のチビイトマキヒトデ。上の二枚の写真は同一個体の背面と腹面です。大きさ2cmほど。通常は5腕で、星形の五角形をしていますので、珍しい個体といえます。

2017 AUTUMN

No.85



2017.11.20 発行 貝塚市立自然遊学館

目 次

*ネイチャーリポート

イワタバコ (1) 岩崎拓... 1

近木川河口で採集されたチャイロマルハタ
..... 山田浩二・寺田拓真... 2

二色の浜でのセグロチョウチョウオ採集記
..... 寺田拓真... 3

*行事レポート

二色の浜アマモ場観察 山田浩二... 4

水産技術センター見学&磯の生物観察会 (住吉崎)
..... 山田浩二... 6

京都大学白浜水族館見学&磯の生物観察会 (番所崎)
..... 山田浩二... 7

カニ釣り in 近木川河口 山田浩二... 9

自然生態園バッタ調べ 2017 岩崎拓... 10

近木川のアユを調べよう! 山田浩二... 11

*泉州生きもの情報

阪南市波有手海岸で採集されたスカシカシパン
..... 山田浩二... 13

カタオカハエトリ 岩崎拓・鈴子勝也... 13

*館長コーナー

海の学びミュージアムサポート事業
平成29年度報告 高橋寛幸... 14

*いきものがかり

遊学館で飼育している生きもの12 鈴子勝也... 16

*調査速報

貝塚市二色の浜と近木川周辺の鳥調査6
..... 鈴子勝也... 17

*寄贈標本 18

*スタッフ日誌 23



ネイチャーリポート

イワタバコ (1)

近木川上流の本谷や宿ノ谷（貝塚市蕎原）では、切り立った大きな岩の表面に、イワタバコ *Conandron ramondiioides* が生えています。岩なら何でも良いというわけではなく、滲み出した水で湿った岩に多く見られます（図 1）。また、溪流のしぶきがかかる場所に生えていることもあります。



図 1. イワタバコの群落
（貝塚市蕎原宿ノ谷、2017 年 8 月 22 日）

花の時期は 8 月が中心で、7 月下旬や 9 月上旬でも少し見られるかもしれません。遠くから植物全体を見ると綺麗に見えることがあります。でも、花を近くから見ると、可憐な美しさとは言えず、何か怪しげな美しさを持っているように見え、そこに注意が行ってしまいます（図 2）。



図 2. イワタバコの花
（貝塚市蕎原本谷、2017 年 8 月 17 日）

大きな岩全面にイワタバコがたくさん生えているのを見ると、何となくそのまま受け入れてしまいます。でも、植物が土からではなく岩の表面から生えるのは、普通のことではありません。岩の隙間にたまった土から生えていたり、コケのマットから生えていたりする例もありますが、岩から生えていることもあります。その場合には、実際に岩を這っている根を見ることができます（図 3）。けっこう長い根が交錯していることもあります。そのままの状態で見ることができる植物は少数派でしょう。



図 3. イワタバコの根
（貝塚市蕎原宿ノ谷、2017 年 8 月 22 日）

この根から、滲み出し水を通して、水分およびリンや窒素などの養分を摂取しています。こう書くと、イワタバコが生える場所の条件がイメージできるかもしれません。

どうしてイワタバコは岩から生えることを「選んだ」のか、あるいは「選ばされた」のでしょうか。自分には正解は分かりませんが、岩の表面が他の植物との競争が少ない場所であることは確かです。湿った岩でも、やや乾燥した場所にはマメヅタが茎を伸ばして生え、より湿った場所にはジャゴケが生えています。イワタバコは、その中間ぐらいの湿り気の場所に生えるようです。アサイトゴケなど岩の表面に生えて場所を占有するコケも競争相手かもしれませんが、湿度を保って根を生やす場所を提供するという意味では、単純な競争相手ではないのかもしれない。

参考文献

- 堀田 満 (1994) イワタバコ. 週刊朝日百科 植物の世界 18 : 2-166-169.
牧野富太郎 (1989) 『改訂増補 牧野新日本植物図鑑』、北隆館、1453pp.

(岩崎 拓)

近木川河口で採集された

チャイロマルハタ

貝塚市の海岸ではこれまで 72 種の海水魚が自然遊学館の記録にありますが（特別展「貝塚市の海辺の生きものたち」配布資料、2013）、今回、近木川河口においてハ

タ科のチャイロマルハタ *Epinephelus coioides* が初めて採集されました。本種は新潟県、和歌山県以南の太平洋沿岸に分布することが知られていますが、大阪湾での記録はこれまでにないようです。沿岸の岩礁や汽水域に生息し、成長すると体長 90 cm になる大型種です。

2017 年 9 月 7 日、NPO 法人シニア自然大学校森と海の自然科の皆さんと一緒に近木川河口で地曳網調査を行った際、漁獲物に混ざり、チャイロマルハタの幼魚 1 個体が採集されました。体長は約 7 cm、体には 6 本の不明瞭な太い茶褐色斜帯があり、瞳孔大の赤褐色の斑点が多数あります。現在は展示水槽で飼育中ですが、後には液浸標本として保管する予定です。



図 1. チャイロマルハタ 幼魚
(近木川河口、平成 29 年 9 月 7 日採集)

謝辞

チャイロマルハタの最近の記録についてお教え頂いた大阪府環境農林水産総合研究所の日下部敬之氏にお礼申し上げます。

参考文献

- 池田博美・中坊徹次 (2015) 『南日本太平洋沿岸の魚類』、東海大学出版部、597pp.

(山田 浩二・寺田 拓真)

二色の浜での セグロチョウチョウウオ採集記

2017 年 9 月 8 日

少し肌寒くなり、朝は毛布が欲しくなる時期になってきました。この時期になると休日はたいてい海へと足を運びます。真夏の温泉のように暖かい海でへばっていた魚たちも、水温が下がると活発になり、たくさんの種類が見られるようになるのです。今年は二色の浜に魚採集に行くのも、これでもう 5 回目くらいになるでしょうか。これまでにインダイやオヤビッチャの稚魚などがたくさんとれ、さらにはハマダツやソウシハギの稚魚まで捕れたので期待が膨らみます。今年は特に南方系の魚の種類が多い気がします。採集の前日にはなんと大阪湾では初めてとなるチャイロマルハタの幼魚も捕れているのです。

水温も少し下がっているのでウェットスーツに着替え、両手に網を持って海に入ります。さっそく鮮やかな黄色い熱帯魚のアケボノチョウチョウウオが数匹目に入りますが、すぐに岩陰に隠れてしまい捕まえることはできません。去年に既に採集していたので諦め、沖の防波堤の端まで魚を探します。大阪湾をチヌの海とはよくいったもので、水深 1m もないところすら大きなクロダイが所狭しとたくさんいます。泳いで進んでいくとスーと逃げていきますが、また他の個体数匹が目に入ってくるのです。さらには、大きなアカエイやトビエイまでもが姿を現し、まるで水族館の中のような感じです。



図 1. ハマダツ 幼魚

さて、たくさん魚はいるのですが、自然遊学館で飼育するのは皆少し大きすぎます。そこでチョウチョウウオのいた浅瀬へ戻ると、やはりアケボノチョウチョウウオが迎えてくれますが、すぐに隠れてしまいました。その場は諦め少し進むと、なんとセグロチョウチョウウオの幼魚がいるではないですか。沖縄の八重山の海で見覚えのある特徴的な姿で一目で分かります。この魚は二色の浜では見たことがなく、記録にもないはずなのでなんとか捕まえようとゆっくり追いかけますが、案の定すぐに岩の下に隠れてしまいました。万事休すかと思いましたが、その岩陰は少し広めで、のぞき込むとそこには白い魚体で背中が黒く黄色で縁取られた魚の姿が見えたのです。



図 2. セグロチョウチョウウオ
(二色の浜、平成 29 年 9 月 8 日採集)

行事レポート

二色の浜アマモ場観察

日時：2017年7月9日（日）9：30～12：00

場所：二色の浜

参加者：47人（うちスタッフ12人）

日本財団「海の学びミュージアムサポート」助成事業

その穴はちょうど人の頭一つが入りそうな大きさで左右に抜け道がありました。ひとまず左手の網で左側の穴を塞ぎます。右手の網は穴の右側から底を這うように魚に近づけ、反対側の左手で魚を追い込みます。しかし、少しの網の隙間を通り抜けてしまいます。それでも魚は穴の中から出ようとはしないので何度か同じようにすれば上手く入るのではと考え同じ動きをくり返しますが、結局小さな隙間から網には入ってくれないのです。そうこうしているうちに穴から出て行ってしまったではありませんか。

岩の前で一時間近くもにらめっこしていながら結局捕まえられなかったのか、と一度は落胆していたところ、ふと右を見ると岩と岩の間で押しは引く波に揺られるセグロチョウウオの姿がそこにあったのです。相手もこれまでのやりとりで青色の網にはとても警戒しています。ゆっくりと近づき、岩の奥に入られないよう左手の網で隙間の奥側を防ぎ、右手の網を近づけようとするやいなや、猛ダッシュで逃げようとしてこちら側に泳いできました。反射的に右手にもった網を引くと丁度魚の逃げ道と被さり網の中へ入ってきたのです。運良く採集することが出来たセグロチョウウオは現在、館で飼育展示中です（後記：10月4日死亡したため、液浸標本となりました）。

（寺田 拓真）

今年で3年目となるシュノーケリング観察会で、二色の浜の離岸堤の内側に生えているアマモ場域で行いました（図1）。曇り空ということもあり、透視度がまいちのなかでの観察でしたが、アマモの生えている様子や、イシダイの幼魚の群れ（図2）やオヤビッチャ（図3）というきれいな魚も見られました。



図1. アマモ場でシュノーケリング



図2. イシダイの幼魚の群れ



図 3. オヤビッチャ

アマモ場は主に離岸堤に沿って生えているので、コンクリートの離岸堤で見られる岩場の生きものの採集も合わせて行いました。シュノーケリングで確認した生きもののリストを表 1 に示しました。

表 1. 二色の浜のアマモ場で観察した海岸動物 2017年7月9日

グループ		和 名
海綿動物門	尋常海綿綱	イソカイメン科 クロイソカイメン
刺胞動物門	鉢虫綱	旗ロクラゲ目 ミズクラゲ
軟体動物門	多板綱	クサズリガイ科 ヒザラガイ
	腹足綱	ニシキウスガイ科 コシダカガンガラ テグサガイ
		サザエ科 サザエ スガイ
		オニノツノガイ科 コベルトカニモリ
		タマキビガイ科 モロハタマキビ
		アツキガイ科 イボニシ
		ムシロガイ科 アラムシロ
		アメフラシ科 アメフラシ ウミナメクジ
		ハダカモウミウシ科 マツモウミウシ
		イロウミウシ科 アオウミウシ
		カラマツガイ科 キクノハナガイ
	二枚貝綱	イガイ科 ホトギスガイ
		マルスダレガイ科 アサリ
環形動物門	多毛綱	ウロコムシ科 ウロコムシ科の一種
		ウズマキゴカイ科 ウズマキゴカイ科の一種
節足動物門	軟甲綱	ヒゲナガヨコエビ科 ニッポンモバヨコエビ
		ホンヤドカリ科 ユビナガホンヤドカリ ケアシホンヤドカリ
		ガザミ科 インガニ
		オウギガニ科 オウギガニ
		モクズガニ科 ヒライソガニ
		ベンケイガニ科 ヒメベンケイガニ
外肛動物	複眼綱	フクロコムシ科 ホンダワラコムシ
棘皮動物	ヒトデ綱	イトマキヒトデ科 イトマキヒトデ チビイトマキヒトデ
		マヒトデ科 マヒトデ
	ウニ綱	オオバフンウニ科 バフンウニ
脊索動物門	硬骨魚綱	フサカサゴ科 メバル属
		タイ科 クロダイ
		スズメダイ科 オヤビッチャ
		イシダイ科 イシダイ
		イソギンボ科 ニジギンボ
		ハゼ科 ドロメ
		フグ科 ヒガンフグ

小休憩をはさんだ後は、シュノーケリングをした場所で地曳網を行いました。砂浜の岸近くにはアナアオサが多く浮遊していましたので、網には大量のアナアオサが入り、網を陸へ引き上げる際はかなりの重さでした。このアナアオサに埋もれた中から漁獲物を探しました（図 4）。2 回の網入れを行いました。漁獲は少なめで、合せて魚類 8 種 24 匹、甲殻類 5 種 15 匹、あと、マヒトデ 6 匹が捕れたにとどまりました（表 2）。



図 4. 大量のアナアオサに埋もれる漁獲物

表 2. 二色の浜地曳網（網入れ 2 回）2017 年 7 月 9 日

グループ	目	科	和名	個体数
魚類	スズキ目	フサカサゴ科	メバル属	7
		ガジ科	アサヒアナハゼ	3
		スズキ科	スズキ	2
	フグ目	タイ科	ヘダイ	4
			クロダイ	3
		ハゼ科	ドロメ	1
甲殻類	十脚目	カワハギ科	アミメハギ	1
		フグ科	クサフグ	3
		テナガエビ科	スジエビモドキ	2
	マヒトデ目		ユビナガスジエビ	3
		ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	5
		ガザミ科	インガニ	4
棘皮動物	マヒトデ目		ガザミ	1
		マヒトデ科	マヒトデ	6

（山田 浩二）

水産技術センター見学

& 磯の生物観察会（住吉崎）

日時：2017年7月25日（火）9:00～17:00

場所：岬町 大阪府水産技術センター、
和歌山市 大川住吉崎

参加者：30人（うちスタッフ8人）

日本財団「海の学びミュージアムサポート」助成事業

貝塚市役所から貸し切りバスを利用し、大阪湾の南端に近い海岸を訪れました。午前中は岬町にある大阪府栽培漁業センターの見学を行いました。はじめに講義室で、センターの和田太一さんより水産技術センターの業務や漁業、栽培漁業についてのお話を聞いたり、ビデオを見て学習しました。その後、栽培漁業センター内を移動しながら、飼育しているトラフグなどの稚魚が入った水槽の見学や、タッチングプールに入った海の生きものを触ったりしました（図1）。



図1. 栽培漁業センター内の見学

午後からはバスでもう少し南下し、和歌山市大川にある住吉崎で磯の観察を行いました。ここには南海せとうちジオガーデ

ンという施設があり、管理しておられる戒下さんご夫妻のご協力のもと観察会を行いました。

潮のひいた磯ではごつごつとした大小の転石があり、そこをめくると貝やカニ、ヤドカリ、ヒトデなどの多種多様な生物をたくさん見つけることができました（図2）。ババガセやケムシヒザラガイ（図3）、ミルという

海藻に付いたヒラミルミドリガイなどの貝類や、群体ボヤを背負ったフクイカムリ（図4）というカニなどは貝塚市の海岸ではこれまで見かけたことのない生物です。同じ大阪湾の海岸といえども、自然度の高さに参加者の方々は驚いている様子でした。

採集を終えると、各自採集した生きものを持ち寄り、バットに集めてみんなにどんな生きものが採れたか見てもらいました。講師として同行して頂いた児嶋格さんには貝類の解説をして頂きました。表1に観察した海岸動物を記しましたが、貝の仲間（軟体動物門）だけで53種が観察されました。



図2. 大川住吉崎での磯観察

表1. 和歌山市大川住吉崎で観察した海岸動物 2017年7月25日

グループ		和 名
海綿動物門	尋常海綿綱	カワナシカイメン科 ムラサキカイメン
扁形動物門	渦虫綱	多岐腸目 ヒラムシ 類
軟体動物門	多板綱	サメハダヒザラガイ科 サメハダヒザラガイ
		ウスヒザラガイ科 ウスヒザラガイ
		ヤスリヒザラガイ
		ヒザラガイ
		ニシキヒザラガイ
		ババガセ
		ケハダヒザラガイ科 ヒメケハダヒザラガイ
		ケハダヒザラガイ
		ケムシヒザラガイ
腹足綱	ヨメガカサガイ科	ヨメガカサ
		マツバガイ
ユキノカサガイ科		ウノアシ
		コモレビコガモガイ
		アオガイ
		サクラアオガイ
ミミガイ科		トコブシ
		シロスソカケガイ
スカシガイ科		オトメガサ
		アシヤガイ
ニシキウスガイ科		イボサンショウガイモドキ
		イシダタミ
		テグサガイ
		コシダカガンガラ
		テグサガイ
		サザエ
サザエ科		スガイ
		コベルトカニモリ
オニノツノガイ科		ゴマツボ
		アワブネ
リソツボ科		シマメノウフネガイ
		メダカラ
カリバガサガイ科		メダカラ
		オオヘビガイ
タカラガイ科		キリオレガイ
		レイシ
ムカデガイ科		イボニシ
		クリフレイシ
ミツクチキリオレ科		クリフレイシ
		ヒメヨウラク
アッキガイ科		ムギガイ
		コウダカマツムシ
フトコロガイ科		ゴマフホラダマシ
		イソニナ
エソバイ科		ヒラミルミドリガイ
		ウミナメクジ
ゴクラクミドリガイ科		シロウミウシ
		アオウミウシ
アメフラシ科		シラライロウミウシ
		カリガネエガイ
イロウミウシ科		ミミエガイ
		ヒバリガイ
二枚貝綱	フネガイ科	クジャクガイ
		マガキ
	イガイ科	マガキ
		トマヤガイ
	イタボガキ科	トマヤガイ
		オニアサリ
	マルスダレガイ科	オニアサリ
		クマノアシツキ
環形動物門	多毛綱	カメノテ
		カメノテ
節足動物門	顎脚綱	クロフジツボ
		クロフジツボ
	軟甲綱	フナムシ
		フナムシ
	テナガエビ科	イソスジエビ
		イソスジエビ
	スナモグリ科	スナモグリ
		スナモグリ
	ホンヤドカリ科	ホンヤドカリ
		ケアシホンヤドカリ
	トラバガニ科	ヒラトゲガニ
		ヒラトゲガニ
	カニダマシ科	イソカニダマシ
		コブカニダマシ
	カイカムリ科	フクイカムリ
		フクイカムリ
	クモガニ科	イッカクガニ
		イッカクガニ
	オウギガニ科	オウギガニ
		オウギガニ
		トガリオウギガニ
		ケブカアワツバガニ
	モズガニ科	ヒライソガニ
		ヒライソガニ
棘皮動物	ヒトデ綱	イトマキヒトデ
		イトマキヒトデ
		ヌメイトマキヒトデ
		ヌメイトマキヒトデ
	マヒトデ科	ヤツデヒトデ
		ヤツデヒトデ
	トゲクモヒトデ科	ナガトゲクモヒトデ
		ナガトゲクモヒトデ
	クモヒトデ科	ニホンクモヒトデ
		ニホンクモヒトデ
	ウニ綱	オオバフンウニ
		オオバフンウニ
	ナガウニ科	ムラサキウニ
		ムラサキウニ
	ナマコ綱	マナマコ
		マナマコ
青索動物門	ホヤ綱	マボヤ
		マボヤ
	硬骨魚綱	ハゼ科
		ハゼ科



図 3. ケムシヒザラガイ



図 4. フクイカムリ

(山田 浩二)

京大白浜水族館見学

& 磯の生物観察会 (番所崎)

日時：2017年8月20日(日) 8:00~17:00

場所：京都大学白浜水族館、白浜町番所崎

参加者：26人(うちスタッフ5人)

日本財団「海の学びミュージアムサポート」助成事業

夏休みに貸し切りバスで行く磯観察の第2弾は大阪湾を飛び出し、紀伊水道から太平洋に出る辺りに位置する南紀白浜の番所崎海岸を訪れました。ここは温帯域にありながら、黒潮が沿岸を流れている影響

で熱帯性の生物が多数みられ、海洋生物の多様性が大変高い地域です。

現地に着くと京都大学瀬戸臨海実験所の久保田信先生が出迎えて下さり、さっそく潮のひいた磯に出て観察会を始めました。観光名所として有名な円月島のすぐ横の磯は、岩礁でところどころに潮だまりがあり、大きな転石もある磯観察にはうってつけの場所です。久保田先生の後をぞろぞろと歩きながら、見つけた生きものの説明を聞いたり、「白浜の海岸生物観察ガイド」という冊子を見開き確認していきま

した。潮だまりの中の海水はまさに透明で、海藻と見まがうハネウミヒドラという刺胞動物やガンガゼ、ツマジロナガウニというウニ、毛むくじゃらのケブカガニなど水族館さながらに生きものをまじかに見ることができました。岩礁にはヒバリガイモドキやオハグログキなどの二枚貝が群生していたり、大きさ1cmにも満たないヒメカクオサガニ（図2）という小さなカニが隙間から出てきては歩く姿が見られました。



図1. 白浜番所崎での磯観察



図2. ヒメカクオサガニ

昼食後は臨海実験所内にある京都大学白浜水族館の見学です。この水族館は無脊椎動物を中心に常時500種の飼育水族があり、ここでも久保田先生の案内の下、各水槽を見て回りました（図3）。動物門の系統関係をまとめたパネルの前では、先生の作詞された「地球の住民～世界の動物40門～」の歌を披露しながら説明していただきました。



図3. 京大白浜水族館の見学

この日、番所崎で観察した海岸動物のリストを、講師として同行して頂いた児嶋格さんの貝の記録もあわせて表1に示しました。

表1. 和歌山県白浜番所崎で観察した海岸動物 2017年8月20日

グループ		和 名
刺胞動物門	ヒドロ虫綱	ハネウミヒドラ
軟体動物門	多板綱	ウスヒザラガイ
		ケハダヒザラガイ
腹足綱	ヨメガカサガイ科	クサズリガイ科
		ヒザラガイ
		ヨメガカサ
		マツバガイ
		ユキノカサガイ科
		ウノアシ
		スソカケガイ
		コモンスソキレ
		ニシキウスガイ科
		ヒメクボガイ
サザエ科	ウラウスガイ	クマノコガイ
		ギンタカハマ
		ハクシャウス
		ニシキウス
		ウスイチモンジ
		ナツモモ (D)
		ウラウスガイ
		コシダカサザエ (D)
		スガイ (D)
		アマオブネ
アマオブネ科	オニノツノガイ科	オニノツノガイ (D)
		ゴマフニナ
		アラレタマキビ
		イボタマキビ
		ヒメウスラタマキビ
		スズメガイ科
		マギキガイ (D)
		ムカシタモト (D)
		ムカデガイ科
		オオヘビガイ
オキニシ科	クチュムラサキオキニシ	クビタテヘビガイ
		タモトガイ
		ヨフバイ (D)
		ヒメヨウラク
		レイシ
		ウネレイシダマシ
		シマレイシダマシ
		イボニシ
		キヌカツギイモ
		タガヤサンミナシ (D)
イモガイ科	カラマツガイ	シロカラマツガイ
		マメダコ
		エガイ (D)
		ヒバリガイモドキ
		クジャクガイ
		オハグロガキ
		ノコギリガキ
		ミノガイ (D)
		サルノカシラ
		イバラカンザシゴカイ
環形動物門	カンザシゴカイ科	カメノテ
		イワフジツボ
		クロフジツボ
		イソスジエビ
		イソコバサミ
		ホンヤドカリ
		オオアカハラ
		イソクズガニ
		ヨウタクズガニ
		ケブカガニ
節足動物門	軟甲綱	ヒメカクオサガニ
		ガンガゼ
		サンショウウニ科
		コシダカウニ
		ナガウニ科
		ツマジロナガウニ
		ラッパウニ科
		シラヒゲウニ
		ムラサキグミモドキ
		ナマコ綱
棘皮動物	ウニ綱	スクレロダクティラ科
		ムラサキグミモドキ

(D): 殻のみの確認

(山田 浩二)

カニ釣り in 近木川河口

日時: 2017年9月9日(土) 10:00~12:00

場所: 近木川河口左岸

参加者: 63人(スタッフ10人)

日本財団「海の学びミュージアムサポート」助成事業

協力: 大阪湾環境保全協議会

初秋の近木川河口のヨシ原でカニ釣り大会を行いました(図1)。いざ始めてみると餌のタクワンをカニの目の前に落とし、餌に食らいついてくる活発さがあまりなく、例年に比べると苦戦を強いられました。

50分間の釣り時間で、皆さんの釣ったカニを集計すると、アシハラガニ58個体(図2)、ハマガニ23個体、クロベンケイガニ22匹、アカテガニ2個体の計105個体という結果でした。例年同じ時期に実施しているカニ釣りですが、昨年は181個体、一昨年は232個体だったことを考えると、今回は大きく減少したといえます。釣れたカニの大物の記録を種ごとに表1に記しました。



図1. 近木川河口でのカニ釣り



図 2. 釣れたアシハラガニ

表 1. カニ釣り大物ベスト3 近木川河口2017年9月9日

クロベンケイガニ		
合計 22個体 (平均甲幅26.3mm)		
	甲幅(mm)	採集者
♂1位	35.6	ふじわら たかふみ
2位	34.3	ふじわら たかふみ
3位	29.0	きくち ゆうひ
♀1位	31.6	ゆあさ まほ
2位	29.7	つつみ いった
3位	23.4	いまもと こうせい

ハマガニ		
合計 23個体 (平均甲幅40.6mm)		
	甲幅(mm)	採集者
♂1位	54.6	ふじわら たかふみ
2位	49.5	ふじわら たかふみ
3位	49.3	ふじわら たかふみ
♀1位	47.8	しらが ゆめ
2位	45.8	みくも そうすけ
3位	43.1	つつみ いった

アシハラガニ		
合計 58個体 (平均甲幅26.2mm)		
	甲幅(mm)	採集者
♂1位	32.7	みくも そうすけ
2位	32.6	いばらき あつし
2位	30.6	つつみ いった
♀1位	30.4	ふじわら なおし
2位	29.1	ふじわら なおし
3位	28.7	しらが ゆめ

カニ釣りの後は、汽水ワンドへ移動して、ハクセンシオマネキを観察しました。スナガニ類の行動学に詳しい和歌山県立海南高校教諭の大畠麻里さんに解説して頂き

ながら、ハクセンシオマネキのウォッチングを楽しみました (図 3)。



図 3. 汽水ワンドでのハクセンシオマネキ観察

(山田 浩二)

自然生態園バッタ調べ 2017

日時: 2017 年 9 月 9 日 (土) 11:00~12:00

場所: 自然生態園「バッタの原っぱ」

参加者: 12 人

今年も、自然生態園「バッタの原っぱ」(貝塚市二色)において、自然遊学館わくわくクラブのメンバーと一般参加者でバッタ調べを行いました。

手か網で採集したものを 1 匹ごと透明プラスチックカップに入れ、それを森康貴先生が種ごとに仕分けていきます。12 人で 20 分間採集した結果、8 種 26 個体のバッタ・コオロギ・キリギリスの仲間が採集されました (表 1)。

表1. 自然生態園「バッタの原っぱ」のバッタ調べ

2017年9月9日 11:00～12:00 12人

同定: 森 康貴

科	種	成虫	幼虫
キリギリス科	クビキリギリス		3
コオロギ科	エンマコオロギ	6	4
	ハラオカメコオロギ		1
オンブバッタ科	オンブバッタ属		1
バッタ科	ショウリョウバッタ	7	
	クルマバッタモドキ	1	
	マダラバッタ		1
	イボバッタ	2	

ほか、チョウセンカマキリ（1♀2幼虫）を採集。

森先生には、キリギリス、コオロギ、バッタの仲間の違いに焦点を当てて、クイズも交えて、産卵方法や、鳴き声を聞く「耳」の場所、越冬のステージや、食べ物について解説をしていただきました（図1）。



図1. バッタの説明をする森先生（右）

2006 年からバッタ調べの記録が残っていて、今回の8種は最少タイ、26個体は最少の値でした（12回の平均は10種、57個体）。迷走した台風5号が8月7日に接近して100ミリほど雨が降ったものの、それ以外の日にさっぱり降らず、バ

ッタの原っぱがほぼ完全に枯れた時期が2回あり、少ないのではと予想していましたが、その通りになってしまいました。

最後に採集したバッタやカマキリを逃がして、行事を終えました。

(岩崎 拓)

近木川のアユを調べよう！

日時: 2017年9月23日（土）10:00～12:00

場所: 近木川下流

参加者: 31人（うちスタッフ8人）

今年で6回目を迎えた近木川でのアユ調べの行事です。今夏は極端に雨が少ない年であったことが影響してか、近木川の新井堰下の流れは中洲をはさんで2本に分かれていたのが、南側の1本だけになっていました。水域が狭くなった分、魚の生活場所が減少し、講師の河野さんやスタッフも今回はアユが採れるのは空振りになることを覚悟して臨みました。

曇り空の下、行事を開始し、はじめに刺し網をかけるも掛かるのはボラばかりです。次にタモ網や投網で魚のいそうな場所を探ります（図1）。オイカワやハゼ類、ウナギなど次第に採れる種数も増えてきました。

そして採集時間の後半になって、ようやく目玉のアユが採れました。アユの隠れている場所がわかると続けざまに採れ出し、計6匹のアユを採集することができました。これらのアユ1匹は標本用に持ち帰り、残りは逃がしてあげました（図2）。

最後に皆さんが採集した生きものを一堂に集め、どんな生きものが採れたかの紹介を行いました(図3)。カダヤシが多く採れ、ミナミメダカが1匹も採れなかったのはショックでした。表1に今回、確認できた水生生物のリストを記します。



図1. タモ網での採集



図2. 採集されたアユ



図3. 採れた生きものの紹介

表1. 近木川河口(新井井堰)で観察した動物 2017年9月23日

グループ			和 名
軟体動物門	腹足綱	アマオブネガイ科	イシマキガイ
節足動物門	軟甲綱	ヌマエビ科	ヌマエビ spp.
		テナガエビ科	テナガエビ
		クルマエビ科	ヨシエビ
		モクズガニ科	モクズガニ
		ベンケイガニ科	クロベンケイガニ
			アカテガニ
	昆虫綱	イトトンボ科	アオモンイトトンボ
		サナエトンボ科	コオニヤンマ(幼虫)
		アメンボ科	アメンボsp.
脊索動物門	硬骨魚綱	キュウリウオ科	アユ
		ウナギ科	ウナギ
		コイ科	オイカワ
			ギンブナ
			モツゴ
		ボラ科	ボラ
		カダヤシ科	カダヤシ
		カワアナゴ科	カワアナゴ
		フナ科	フナsp.
		ハゼ科	マハゼ
			ヒナハゼ
			アベハゼ
			ゴクラクハゼ
			ミミズハゼ
	爬虫綱	イシガメ科	クサガメ
		ヌマガメ科	ミシシippアカミミガメ

(山田 浩二)

夏休み自由研究相談

期間:2017年7月17日(祝)~8月31日(木)

自然遊学館では夏休み期間中、自由研究の相談を受け付けました。以下にどんなテーマの相談があったか記します。

- ・キジバトの生態 貝塚市、小3
 - ・ヤゴとトンボ 泉佐野市、小6
 - ・カニ釣り 貝塚市、小5
 - ・カニ釣り 貝塚市、小3
 - ・カニ釣り 貝塚市、小1
 - ・土の中の生物 和泉市、小6
 - ・近木川河口の生きもの 岸和田市、小6
- など

泉州生きもの情報

阪南市波有手海岸で採集された スカシカシパン

2017年5月12日、阪南市の波有手海岸でNPO法人環境教育技術振興会と企業のプロロジスが担当した大阪湾生き物一斉調査が行われました。この場所での調査は今年で3年目となり、いずれの調査にも参加させて頂いています。

貝塚市の二色の浜では、広い砂浜を維持するために数年おきに九州沿岸などの砂を移入していますが、波有手の方は自然の砂浜です。そのためか、二色の浜の砂浜の方が、砂粒の粒径が大きい感じがおり、生物相も少し異なっています。

この日の調査も多様な生物種が見つかり、合計171種群が記録されましたが（大阪湾環境再生連絡会、2017）、そのなかで大阪湾では珍しいスカシカシパン *Astriclypeus manni*（タコノマクラ目スカシカシパン科）というウニが1個体採集されました。潮下帯域の砂地をタモ網ですくって生きものを採し、時おり、プロロジスの社員の方が採った生きものについて聞きに来られる中で、えっと目を丸くしたのがスカシカシパンでした。ここでは似た仲間のハスノハカシパン（ヨウミヤクカシパン科）はよく見かけののですが、その個体は茶褐色で、何より5個の穴が開いているのが特徴的なスカシカシパンでした。この種は殻の直径15cm程になる大型種ですが、採集個体は直径は6cmでした（図1）。貴重な標本として、当館の所蔵標本として保管しています。



図1. スカシカシパン
（上：背面、下：腹面）

引用文献

大阪湾環境再生連絡会（2017） 第10回大阪湾生き物一斉調査結果発表会 2017 配布資料。

（山田 浩二）

カタオカハエトリ

7月11日、和泉葛城山頂での鳥類調査の際に、展望台のコンクリート壁に小さなクモが止まって、「腕」を振っているのを見つけました。ダンスか、お祈りをしているようにも見えます。体長は3mmと小さく、ハエトリグモ科の幼虫だろうと見当を付けて、館に持ち帰って図鑑で調べると、これまで標本がなかったカタオカハエトリ *Euophrys kataokai* のオス成体であること

が分かりました（図1）。



図1. カタオカハエトリ
(和泉葛城山 2017年7月11日 採集)

これまでに貝塚市内で記録されてきたハエトリグモ科 13 種の中で最小サイズですが、その他に、歩脚と触肢が鮮やかな橙色で目立つという特徴があります。さきほど「腕」と言ったのは第1歩脚で、脚の先に黒色の毛が生えています。その脚を波打つように上下させる行動を、室内でも何度も繰り返していました。その際には、目の前にある一対の触肢をもっと速いスピードで上下させていました。これらの行動は waving と呼ばれ、求愛行動に含められるものだと思います（動画を youtube にアップしています：「カタオカハエトリ（和泉葛城山 2017年7月11日）」）。

ハエトリグモ科は一般的に、クモ類の他の科よりも視覚が発達し、立体視ができる優れたハンターで、美しい体色をした種を多く含むそうです。その他、英名で jumping spider と言われるように、ジャンプ力がすごいという特徴があります（先の動画の最後で、目にも止まらぬ速さのジャンプを見せてくれます）。

今回のカタオカハエトリの採集で、自然

遊学館が貝塚市内で標本を得たクモの種数は 90 種になりました。その他、本誌 77 号で布村和彦さんが報告したカトウツケオグモの写真を含めると、91 種目ということになります。ただ、貝塚市内のクモ類の調査は十分に行われていないので、種数に関しては、これからも増えると思います。

参考文献・サイト

- 千国安之輔（1989）『写真日本クモ類大図鑑』。偕成社。308pp.
- 谷川明男（2017）日本産クモ類目録 ver. 2017R1.
<http://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tnkw/japan.pdf>.
- 布村和彦（2015）貝塚市でカトウツケオグモを発見。自然遊学館だより No. 77：11-12.
- Beccaloni, J.（2009）Arachnids. University of California Press, Berkeley, 320pp.

（岩崎 拓・鈴子 勝也）



館長コーナー

海の学びミュージアムサポート事業 平成 29 年度報告 2

前回の遊学館だよりで、平成 29 年度の海の学び行事は 7 月までの行事が終了し、以後の実施行事は順次お伝えします、とお知らせしていました。

今回のたよりで、その各行事報告が掲載されています。

今年度の初めに実施した「海の学び報告展」では、団体見学に来た小学生が熱心に展示物に見入っていました。



特別展「海の学び報告会」1



特別展「海の学び報告会」見学の様子



特別展「海の学び報告会」2



特別展「海の学び報告会」会場内

海の学びミュージアムサポート事業は当館の観察・調査活動と並行して行われています。

館の行事の中の海や川という水辺の観察活動を、『環境教育』の観点から迫り、水辺の環境を守り、『生きものにやさしい環境を作るために、私たちは何を考え、何を行うか?』を考える事業です。

さらに、貝塚市を離れ大阪湾全体の海の環境を学習する行事を希望者募集で行っています。

募集人数は20名と少ないですが、参加者のアンケートからは、「環境教育の必要を考えることができた」という内容の回答が多かったです。その結果は事業終了後に集約し、報告いたします。

当館の展示・普及活動

◆ 海・川・山・田んぼ・町中の自然資源を生かした出前授業の実績について
→ 近木川や二色の浜、脇浜の水田などで実施している市内幼稚園・小学校やボーイスカウトの生きもの観察会、木積や蕎原な

どの町会館での貝塚の自然についての学習会、さらにはコスモス市民講座による貝塚の生きものについての学習会、そして、市民団体の近木川河口や二色の浜観察会に講師派遣など、貝塚の身近な生きものを中心とした自然についての情報提供を行っています。

◆ 同様な博物館との交流など府下での他施設との交流について

→ 当館の近隣の博物館、きしわだ自然資料館とは随時職員同士の情報交流を行い、阪南 2 区人工干潟では職員が共同して観察・調査を行っています。

大阪市立自然史博物館（長居）とは、情報提供を行い、状況に応じ指導助言を受けています。

NPO 法人大阪自然史センターとは、観察会の講師などの人材派遣や貝塚の生きものの資料・展示物作成などに関して委託契約を結んでいます。

さらに、大阪府立弥生文化博物館を中心とした泉州ミュージアムネットワークに所属し、各種博物館と情報交換を行っています。

補足：泉州ミュージアムネットワーク

（貝塚市立自然遊学館、貝塚市立善兵衛ランド、郷土資料展示室、歴史展示室も加盟）

大阪泉州から和歌山県にある公立・私立の美術館・博物館・資料館が力をあわせて結成しました。平成 8 年 12 月 12 日に発足した時は堺や岸和田など 6 市町村の 21 館が加盟しました。泉州の文化発信のネットワークを図ることを目的としています。

他には平成 24 年度から泉州ミュージアムネットワークの勧めにより全国科学博物館協議会に加盟しています。

補足：全国科学博物館協議会（略称：「全科協（ぜんかきょう）」）

自然史及び理工系の科学博物館（総合博物館を含む）、科学館、動物園、水族館、植物園、プラネタリウム等が相互の連絡協調を密にし、博物館事業の振興に寄与することを目的としています。

今後も貝塚市全体の自然を調査・研究するとともに、その結果を多くの市民の皆様提供できるよう、展示・普及活動に力を入れてまいります。ご理解・ご協力よろしくをお願いします。

（高橋 寛幸）

いきものがかり

遊学館で飼育している生きもの 12

夏は、雨や台風が少なく、暑い日が続く毎日、外に出るのを躊躇しそうな日が続きました。

今回は、夏の間だけ展示することになる生きものを紹介したいと思います。

まず初めにクワガタの仲間は、コクワガタ、ヒラタクワガタ、オオクワガタ、ノコギリクワガタ、ミヤマクワガタ、ニジイロクワガタ等を展示しました。コクワガタやヒラタクワガタは、貝塚市で採集されたもので、オオクワガタ、ノコギリクワガタ、

ミヤマクワガタ、ニジイロクワガタは、飼育していた人から、寄贈していただきました。



クワガタふれあい場



寄贈のノコギリクワガタ

コガネムシの仲間は、皆さんがよく知っているカブトムシやアトラスオオカブト等を寄贈していただきました。

バッタ目の仲間は、ショウリョウバッタ、オンブバッタ、クルマバッタ等を採集して展示しました。

寄贈していただいた、森田紳平さん、泉谷明さん、常道武士さん、ありがとうございました。

(鈴子 勝也)

調査速報

貝塚市二色の浜と 近木川周辺の鳥調査 6

夏の時期になると体験学習で来る中学生や高校生、学芸員実習で来る子たちと、ともに鳥の調査をしていきました。今回は、7月～9月までの鳥調査の結果です。

二色浜公園周辺において2017年7月～9月に観察された鳥類			
目	科	種	7月
			19日
			13:20
目	科	種	8月
			23日
			13:40
目	科	種	9月
			20日
			13:20
目	科	種	鈴子
			鈴子
			鈴子
ハト目	ハト科	キジバト	○
		ドバト	○
		カワウ	○
カツオドリ目	ウ科	ササゴイ	○
		アオサギ	○
		ダイサギ	○
ペリカン目	サギ科	コサギ	○
		コチドリ	○
		シロチドリ	○
チドリ目	チドリ科	シロチドリ	○
		シギ科	○
		キアシシギ	○
タカ目	タカ科	トウネン	○
		カモメ科	○
		ウミネコ	○
スズメ目	カラス科	ハシボソガラス	○
		ハシブトガラス	○
		シジュウカラ科	○
シジュウカラ科	シジュウカラ	シジュウカラ	○
		ヒバリ科	○
		ヒバリ	○
ツバメ科	ツバメ	ツバメ	○
		ヒヨドリ科	○
		ヒヨドリ	○
ムクドリ科	ムクドリ	ムクドリ	○
		ヒタキ科	○
		イソヒヨドリ	○
スズメ科	スズメ	スズメ	○
		セキレイ科	○
		ハクセキレイ	○
アトリ科	カワラヒワ	カワラヒワ	○
		種数	16
		20	19



夏バテ、ムクドリ
二色の浜公園、2017年7月19日

寄贈標本

近木川河口周辺において2017年7月～9月に観察された鳥類

			7月	8月	9月	
			13日	9日	6日	
			13:30	13:30	13:25	
目	科	種	鈴子 千地	鈴子	鈴子 土生	
カモ目	カモ科	カルガモ	○			
ハト目	ハト科	キジバト	○	○	○	
		ドバト	○	○	○	
カツオドリ目	ウ科	カワウ	○	○	○	
ペリカン目	サギ科	ゴイサギ	○		○	
		ササゴイ	○			
		アオサギ	○	○	○	
		ダイサギ	○	○	○	
		コサギ	○	○	○	
ツル目	クイナ科	オオバン		○	○	
チドリ目	チドリ科	ケリ	○		○	
		ヨチドリ	○		○	
		シロチドリ		○	○	
	シギ科	キアシシギ		○	○	
		イソシギ	○			
		ハマシギ			○	
	カモメ科	ウミネコ	○	○	○	
	タカ目	タカ科	トビ		○	
	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ			○
	スズメ目	カラス科	ハシボンガラス	○	○	○
ハシブトガラス			○		○	
ツバメ科		ツバメ	○	○	○	
ヒヨドリ科		ヒヨドリ	○	○	○	
ムクドリ科		ムクドリ	○	○	○	
ヒタキ科		イソヒヨドリ	○	○	○	
スズメ科		スズメ	○	○	○	
セキレイ科		ハクセキレイ	○	○	○	
		セグロセキレイ	○			
アトリ科		カワラヒワ			○	
種数			22	18	24	



ドバト

近木川河口周辺、2017年8月27日
学芸員実習生撮影

(鈴子 勝也)

<菌類>

◆西出康介さんより

スエヒロタケが生えた材 1点

貝塚市脇浜 2017年8月5日採集

<哺乳類>

◆廣野真さんより

コウベモグラ 死体1点

貝塚市蕎原 2017年7月17日採集

<鳥類>

◆食野俊男さんより

スズメ 死体1点

貝塚市南町 2017年9月23日採集

<爬虫類>

◆山下憲一郎・西岡諒さんより

クサガメ 生体1点

貝塚市脇浜 2017年9月15日採集

◆千地芳樹さんより

カナヘビ 生体1点

貝塚市脇浜 2017年9月23日採集

<魚類>

◆福島秀人さんより

キジハタ 生体1点

カサゴ 生体6点

泉佐野市りんくう往来北

2017年7月2日採集

◆南海せとうちジオガーデンさんより

ハナオコゼ 生体1点

岬町多奈川小島沖

2017年7月14日、漁師採集

◆木下由貴さんより

ドジョウ 生体 1 点

堺市東区 2017 年 8 月 11 日採集

◆寺田拓真さんより

ハマダツ 生体 1 点

オヤビッチャ 生体 1 点

イシダイ 生体 6 点

ニジギンポ 生体 3 点

ナベカ 生体 3 点

貝塚市二色の浜 2017 年 7 月 22 日採集

オヤビッチャ 生体 9 点

ナベカ 生体 6 点

カワハギ 生体 3 点

ソウシハギ 生体 1 点

イソギンポ 生体 1 点

貝塚市二色の浜 2017 年 8 月 19 日採集

セグロチョウチョウウオ 生体 1 点

貝塚市二色の浜突堤

2017 年 9 月 8 日採集

◆川口博さんより

ハタタテヌメリ 打ち上げ 15 点

貝塚市二色の浜 2017 年 9 月 1 日採集

◆ボーイスカウト貝塚第 2 団より

サヨリ 成体 1 点 (地曳網)

貝塚市二色の浜 2017 年 9 月 10 日採集

＜軟体動物＞

◆常道武士さんより

カワニナ 生体 2 点、殻 1 点

ヒメタニシ 生体 5 点

貝塚市橋本 2017 年 7 月 11 日採集

◆寛野信行さんより

イシマテ 1 点

泉佐野市マールビーチ

2017 年 7 月 23 日採集

＜環形動物＞

◆川口博さんより

ウミケムシ 生体 1 点 (打ち上げ)

貝塚市二色の浜 2018 年 9 月 1 日採集

＜甲殻類＞

◆常道武士さんより

アメリカザリガニ 生体 1 点

貝塚市橋本 2017 年 7 月 11 日採集

◆南海せとうちジオガーデンさんより

イシダタミヤドカリ 生体 7 点

ヒメセミエビ 生体 1 点

岬町多奈川小島沖

2017 年 7 月 14 日、漁師採集



ヒメセミエビ

◆川口博さんより

テッポウエビ 生体 1 点 (打ち上げ)

貝塚市二色の浜 2017 年 9 月 1 日採集

◆増井真一さんより

オオヒライソガニ 生体 2 点

貝塚人工島 2017 年 9 月 6 日採集

＜昆虫＞

◆濱谷巖さんより

セグロアシナガバチ 成体 1 点・巣 2 点

岸和田市別所町 2017 年 7 月 2 日採集

セグロアシナガバチ 成体 9 点・巣 1 点

岸和田市別所町 2017年7月8日採集

クモヘリカメムシ 成虫1点

岸和田市別所町 2017年7月24日採集

◆福島秀人さんより

ゴマダラカミキリ 成虫1点

貝塚市二色 2017年7月12日採集

モンクロシャチホコ 幼虫多数

ヒロヘリアオイラガ 幼虫13点

貝塚市二色 2017年9月11日採集

◆佐々木仁さんより

クビキリギス 成虫1点

貝塚市千石荘 2017年7月14日採集

ヨツボシオオキスイ 成虫1点

貝塚市千石荘 2017年9月8日採集

◆あべももか・たつみみゆさんより

アオスジアゲハ 成虫1点

ルリシジミ 成虫1点

クマゼミ 脱け殻10点

貝塚市二色 2017年7月15日採集

◆自然遊学館わくわくクラブより

ホソミオツネトンボ 成虫1点

岸和田市河合町 2017年7月23日採集

◆清水寛承さんより

カブトムシ 成虫1点

貝塚市王子 2017年7月29日採集

◆尾上愛美さんより

ツマアカベッコウ 成虫1点

貝塚市馬場 2017年8月1日採集

◆常道武士さんより

キマダラカメムシ 幼虫1点

貝塚市澤 2017年8月2日採集

◆川口博さんより

ニイニイゼミ 成虫1点

キマダラカメムシ 幼虫3点・成虫2点

貝塚市澤 2017年8月2日採集

アオスジアゲハ 成虫1点

貝塚市二色 2017年9月15日採集

◆西出康介さんより

ハマオモトヨトウ 幼虫1点

貝塚市脇浜 2017年8月15日採集

◆土生耀平さんより

ウスグモスズ 成虫1点

貝塚市千石荘 2017年9月8日採集

◆食野俊男さんより

ハラビロカマキリ 羽化殻1点

貝塚市近木 2017年9月11日採集

◆森永隆晴さんより

クビキリギス(紅色型) 幼虫1点

オンブバッタ 成虫1点

貝塚市澤 2017年9月14日採集

◆山口征一郎さんより

キボシアシナガバチ 巣1点

貝塚市二色 2017年9月19日採集

◆児嶋格さんより

キアシナガバチ 巣1点

和歌山県紀の川市 2017年9月8日採集

<クモ>

◆三俣二生さんより

サツマノミダマシ 成体1点

貝塚市脇浜 2017年7月10日採集

◆自然遊学館わくわくクラブより

オオトリノフンダマシ 成体1点

トリノフンダマシ属の一種 亜成体1点

岸和田市河合町 2017年8月27日採集

◆佐々木仁さんより

コゲチャオニグモ 成体1点

貝塚市千石荘 2017年9月8日採集

＜寄贈写真＞

◆廣野真さんより

ノウサギ 1点

和泉葛城山 2017年6月23日撮影

◆川口博さんより

アカウミガメ 死体2点

貝塚市二色の浜 2017年9月5日撮影

◆覚野良子さんより

ミヤマナミキ 9点

ミヤマハハソ 1点

和泉葛城山 2017年7月8日撮影



ミヤマナミキ

(和泉葛城山 2017年7月8日 覚野良子さん撮影)

ミヤマナミキ 4枚

ツルマサキ 1枚

クワガタソウ 1枚

アカショウマ 2枚

ヤマトウバナ 2枚

オオカモメヅル 2枚

ほか 4枚

和泉葛城山 2017年7月15日撮影

カワセミ 6枚

ヤブガラシ（開花の瞬間） 1枚

ほか 14枚

貝塚市蕎原 2017年7月17日撮影



クルマバナ

(貝塚市蕎原 2017年7月17日 覚野良子さん撮影)

キツリフネ 3枚

ギンリョウソウ 1枚

コショウノキ 2枚

ムカゴイラクサ 1枚

ヤマジオウ 1枚

ヤマトウバナ 4枚

カジカガエル 1枚

ほか 8枚

和泉葛城山 2017年7月23日撮影

マネキグサ 7枚

ほか 3枚

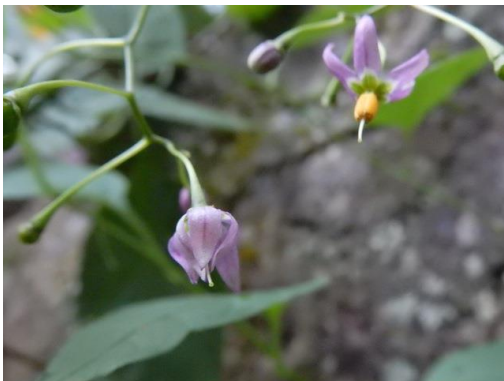
和泉葛城山 2017年8月11日撮影



マネキグサ

(和泉葛城山 2017年8月11日 覚野良子さん撮影)

オオキツネノカミソリ 4枚
マネキグサ 1枚
和泉葛城山 2017年8月12日撮影
ナベナ 2枚
和泉葛城山 2017年8月19日撮影
ミヤマウズラ 1枚
ナベナ 1枚
アマチャズル 1枚
カケスの羽根 1枚
ほか 2枚
和泉葛城山 2017年8月27日撮影
ツルボ 1枚
サトキマダラヒカゲ 1枚
ほか 2枚
熊取町小谷 2017年9月9日撮影
モズ 1枚
貝塚市馬場 2017年9月9日撮影
ナンバンハコベ 1枚
マルバノホロシ 1枚
カワガラス 3枚
ほか 29枚
貝塚市蕎原 2017年9月10日撮影



マルバノホロシ
(貝塚市蕎原 2017年9月10日 覚野良子さん撮影)

クモラン 3枚

カヤラン 1枚
トラノオジソ 4枚
マネキグサ 4枚
マルバノホロシ 1枚
ツルニンジン 1枚
レモンエゴマ 2枚
エゴマ 1枚
ほか 19枚
和泉葛城山 2017年9月18日撮影



クモラン
(貝塚市蕎原 2017年9月18日 覚野良子さん撮影)

- ◆北田誠さんより
ナニワトンボ 成虫1点
貝塚市千石荘 2017年7月16日撮影
- ◆秋武仁志さんより
ベニイトトンボ 成虫2点
貝塚市馬場 2017年8月12日撮影
ベニイトトンボ 成虫2点
貝塚市馬場 2017年9月上旬撮影
ネキトンボ 成虫2点
貝塚市馬場 2017年9月17日撮影
コサメビタキ 1点
(同定：中村進さん)
貝塚市千石荘 2017年9月24日撮影

◆田村裕喜さんより

アケビコノハ 幼虫 1 点
キマダラセセリ 成虫 1 点
トノサマバッタ 成虫 1 点
クルマバッタモドキ 成虫 1 点
貝塚市千石荘 2017 年 9 月 8 日撮影

<展示用>

◆泉谷明さんより

オオクワガタ 成虫 6 点
ニジイロクワガタ 成虫 3 点
2017 年 7 月 23 日寄贈

◆森田紳平さんより

ノコギリクワガタ・ミヤマクワガタ・
コクワガタ・オオクワガタ・カブトムシ
成虫多数
2017 年 7 月 26 日寄贈

◆常道武士さんより

アトラスオオカブト 成虫 1 点
2017 年 8 月 6 日寄贈

◆森田和紀さんより

グッピー 生体 30 点
コリドラス 生体 3 点
2017 年 8 月 31 日寄贈

◆溝端孝史さんより

エンマコオロギ 生体 6 点 (3♂3♀)
貝塚市小瀬 2017 年 9 月 23 日採集
2017 年 9 月 24 日寄贈

◆宮津景子さんより

コオロギ類 生体 3 点
2017 年 9 月 30 日寄贈

<目撃・鳴き声情報>

◆喜多理恵さんより

ベニイトトンボ 成虫 1 点

貝塚市馬場 2017 年 7 月 6 日確認

◆北田誠さんより

ベニイトトンボ 成虫 6 点
その他、モノサシトンボ、クロイトトンボ、タ
イワンウチワヤンマ、ギンヤンマ、シオカラ
トンボ、ショウジョウトンボ、コシアキトン
ボ、チョウトンボ

貝塚市馬場 2017 年 8 月 10 日確認

ママコナ 多数開花

貝塚市稲谷 2017 年 8 月 10 日確認

◆五藤武史さんより

クマゼミ鳴き声 複数回
高石市浜寺公園 2017 年 9 月 30 日確認

 スタッフ日誌

7月12日、泉鳥取高校1年の千地芳樹さんをインターンシップ生として3日間受け入れました。館内の飼育展示のほか、昆虫や鳥類、汽水ワンドの生物調査にも同行してもらいました。小学生の頃から常連さんとして、当館の観察会に参加してきましたので、生きものに詳しく、魚類の飼育もお手のもので、即戦力のスタッフとして頑張ってもらいました。(スタッフ一同)

7月22日、和歌山大学岸和田サテライトのフィールドワーク授業が近木川河口で行われました。和大的古賀先生とともに、午前は河口干潟、午後は汽水ワンドを受講生に案内し、そこに生息する底生生物を観察してもらいました。(山)

8月8日、台風5号による被害は、館周辺ではわずかで、倉庫裏のカメ水槽の日よけ

が飛ばされた程度で済みました。前日の夕方に和歌山県に上陸し、館周辺の風雨のピークもその時分だったようです。水不足が続いていた自然生態園のトンボの池は、貯水タンクも含めて、一気に水位が高くなりました（遊学館の測量によると2日間の降雨量は76mmでした）。二色の浜には大量のアナオサが打ち上げられ、その中にイシガニ、スズキやクロダイなどの幼魚の死体があり、それらをハシボソガラスが突いていました。シロボヤが5個体連なった群体がまだ生きていたので、自然遊学館の海水槽で飼育することにしました。（岩）

8月21日、今日から7日間の日程で、近畿大学農学部水産学科の奥野有希・勘藤良さんの学生2名が博物館学芸員実習を行いました。ちょうどこの日は、いずみ市民生協主催の近木川河口観察会を頼まれていましたので、一緒に同行してもらいました。いろいろな生物が見られましたが、ガンテンイシウジというヨウジウオが獲れ、人気を集めていました。（山）

9月2日、朝、学芸員実習生の土生耀平さんと館前のメダカ水槽の餌やりをしている時、鉢植えのソテツにシジミチョウが来ているのを見つけました。実習で昆虫の種類調べにいいなと思って近づくと、クロマダラソテツシジミだと分かりました（1♂1♀）。前回の大発生当時、貝塚市内でも2008年11月に発生が記録されていて、ほぼ9年ぶりの確認となりました。今年は大府下の各地で再び発生が記録されているようです。（岩）

9月20日、「ヒアリかも！見て欲しい」という急な依頼があり、市民の森のその場所に行くと、トビイロシアワリのように見えました（顕微鏡下で検体すると同属のオオシワアリと分かりました）。確かに頭部と胸部より腹部の方が黒っぽいという特徴があります。7月から9月まで、この例を含めて16件のアリの同定依頼がありましたが、いずれもヒアリではありませんでした。その中ではハリブトシリアゲアリが一番多く、その次はアリグモというクモの仲間でした。（岩）

9月28日、しばらく記録がないと気にしていたツチガエルを蓄原の林道で見ました。自然遊学館の記録上では2009年の蓄原箱谷以来8年ぶりの確認となりました。その間、2014年の大阪府レッドリストの改訂で、トノサマガエルとともに、ランク外から準絶滅危惧に指定されることになりましたが、貝塚市内ではトノサマガエルよりも記録が少ないという状況です。（岩）

* 自然遊学館だよりのバックナンバーは、下記のホームページよりご覧いただけます。

自然遊学館だより 2017 秋号 (No. 85)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>

発行日 2017. 11. 20

この小冊子は市内印刷で作成しています。